



今日が楽しく

明日が待ち遠しくなる学校

- かんがえる子 (知)
- おもいやりのある子 (徳)
- たくましい子 (体)

滝沢市立一本木小学校
令和8年 5月19日
第3号 文責: 亀丸

防災訓練を実施しました

5月1日に今年度1回目の防災訓練を行いました。今回は、大きな地震の後に家庭科室から火災が発生するという想定での避難訓練でした。雨天で校庭の避難場所への避難ができなかったため、体育館に避難しました。滝沢消防署滝沢北出張所の方々に避難の様子を見ていただきました。

まずはシェイクアウト訓練を行いました。地震発生の場合とともに児童は机の下にもぐりました。大きな揺れで机が動くので、机の脚を手で押さえながら揺れが収まるのをじっと待ちます。

揺れが収まったあと、家庭科室から出火した想定で、体育館まで避難しました。低中学年はハンカチで口元を押さえ避難することができていました。高学年はもう一歩でした。普段ハンカチを携帯していないことが多いようです。いざという時に困るものです。校内に取り残された児童がいないか確認した職員の避難完了まで含めても、3分8秒で全員の避難が完了しました。

避難後に消防署の方から講評をいただきました。静かに素早く避難できていて素晴らしかったと褒めていただきました。大きな地震の際は、揺れが収まるまでその場を動かず机の下などにもぐり頭を守ること、揺れが収まって建物の外に避難する時は室内でも靴等を履いて避難することを教えていただきました。

3・4年生は避難の訓練後に煙体験をしました。音楽室に煙を充満させ視界が悪くなったところで、身をかがめて周りのものに触りながら出口に向かう訓練をしました。子ども達は煙が充満していると、周りが見えなくなり避難するのが大変なことを理解することができました。



前がほとんど見えず恐怖を感じます。

部屋の煙はダクトから廊下へ。



修学旅行 ～沿岸被災地を学ぶことができました～

5月14日・15日の2日間修学旅行を実施しました。旅行先は宮古市・山田町・大槌町・釜石市です。岩手に生まれた子ども達だからこそ、今沿岸被災地を訪れ学ぶ機会は大変貴重であり意義深いものと考えています。仙台方面も見学地として魅力的なのですが、岩手山噴火という自然災害の被害を受ける恐れがある一本木に住んでいる子ども達、東日本大震災の津波被害の様子や沿岸被災地の復興の状況を学ぶことは、様々な災害に備える上でとても貴重な経験になりました。

1日目、学校を出発する時は雨が降っていましたが、岩洞湖に着く頃は雨が上がっていました。最初の見学地は龍泉洞でした。とても肌寒く吐く息が白かったです。地底湖の水の美しさや鍾乳石が作り出す洞内の様子に歓声を上げる子ども達でした。



次は「田老の学ぶ防災」でした。バスにガイドさんが乗車し、現在の防潮堤を車窓から見学しながら、津波がどのように町を襲ったのか、今の防潮堤はどのような考えから作られたのか教えていただきました。その後津波遺構田老観光ホテルに移動し、観光ホテルの6階の部屋で、当時ホテルの社長さんが撮影した津波の映像を見せていただきました。ホテルに向かって押し寄せてくる津波を、まさにその部屋から撮影した映像です。子ども達は真剣に映像に見入っ



ていました。迫りくる波の恐ろしさに圧倒されていました。

午前中の見学を終え、シートピアなあと（道の駅・みなとオアシスみやこ）でおいしいカレーを食べ、お土産を買いました。キーホルダーやお菓子が人気でした。買ったお土産はその場で開封しないことを指導しました。

午後は山田町の織笠漁港で漁業体験をしました。まず、カキの殻に付いた海藻などを特別な包丁を使って取り除く作業をしました。作業していると小さなカニやイソメなどの生物が出てきました。丁寧に作業する子、間違っ

てしまう子とそれぞれでしたが、慣れない作業に懸命に取り組みました。その後は船に乗りカキの養殖いかだを見学しました。船に乗るのが初めてという子も多く、まるでジェットコースターに乗っているようにはしゃいでいる子もいました。養殖いかだではカキを水上に引き揚げ

ていただき、どのように吊るして養殖しているのかを身近に見ることができました。その後はオランダ島まで船を進め美しい海を眺めました。船上でうみねこにパンを餌付けしました。とんでもない数のウミネコに子ども達は歓声を上げながら餌付けを楽しみました。ヒッチコックの映画「鳥」を思い出しました。

その日は「三陸花ホテルはまぎく」に宿泊しました。おいしい食事、広いお風呂で友達と一緒にの入浴、お土産の買い物、部屋での団らんと楽しい一夜を過ごしました。早くから目が覚めるのだらうと思っていたのですが、起床時刻直前までぐっすりという部屋もあるほど、どの部屋も静かでした。



2日目最初の学習は「おおつちのあそび」でした。大槌町の豊かな山・海・川を伝えるエコツーリズム事業です。「大槌鹿」として「害獣」を「まちの財産」に変えるジビエサイクルを生み出した取組を学びました。ジビエクイズでは鹿肉のジャーキーをゲットした子どももいました。また、鹿の革を使ったキーホルダーをつくりました。講師の方が消防団でもあり、先日の山火事の様子や、消火活動についても丁寧に教えてくださいました。



ホテルを出発し、「鶴住居復興スタジアム」でラグビー体験と施設の見学を見学しました。

まず、子ども達が楽しみにしていたラグビー体験をしました。元ラグビー選手のたけさん（長田 剛さん）に教えていただきながら、体育でも学習できる「タグラグビー」を全員で思いっきり楽しみました。

体験後は、「いのちをつなぐ未来館」で語り部をしている川崎さんから、復興スタジアムが鶴住居小学校と釜石東中学校の跡地にあること、このスタジアムでラグビーワールドカップが開催されたことで、復興の大きな一歩となったこととお話ししてくださいました。川崎さんは、中学校2年生の時に釜石東中学校で被災し、小学生の手を引いて避難した経験を伝える仕事をしている方です。来年度は「いのちをつなぐ未来館」にも足を運び、じっくりお話を聞かせたいと思いました。

沿岸被災地を後にし、ひと眠りした後、遠野市にある「との物語の館」に立ち寄り、語り部さんの昔話を楽しみました。河童・座敷ワラシ・オシラサマの昔話を聞かせていただきました。昔話や遠野物語の世界観に浸ることができました。

修学旅行を実施するにあたり、6年生の保護者の皆様には事前の準備等ご協力をいただきました。2日間充実した学習をすることができました。大変ありがとうございました。

